

[成果情報名] コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病に強い、日本めん用軟質小麦「ゆめきらり」
[要約]コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病に強く、早熟、穂発芽性「やや難」、製粉歩留、ミリングスコアが高い、日本めん用軟質小麦「ゆめきらり」を育成した。
[キーワード]小麦、コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病、穂発芽性、製粉歩留、ミリングスコア
[担当]長野農試・育種部・作物部
[代表連絡先]電話 026-246-9783
[区分]関東東海北陸農業・関東東海農業・水田作畑作
[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

長野県の主力品種「シラネコムギ」は、近年発生面積が増加しているコムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病に弱く、収量、品質の低下が懸念されている。そこで、コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病抵抗性を備え、栽培特性や小麦粉品質が「シラネコムギ」以上の小麦品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

「ゆめきらり」は、1995年に、長野県農事試験場において、「F₁＝アブクマワセ/ホクシン」を母に、「東山30号（後のキヌヒメ）」を父として交配し、選抜した系統である。

「ゆめきらり」は「シラネコムギ」と比較し、以下の特性を有する。

1. コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病抵抗性は「強」で優れる。
2. 出穂期で2日、成熟期で4日早く、早熟である。
3. 穂発芽性が「やや難」で優れる。
4. 製粉歩留、ミリングスコアが高く、製粉性に優れる。
5. 子実重は対比102%で同等である。
6. 原粒および60%粉蛋白質含量は同等である。
7. うどん官能評価は同等である。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象 小麦生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積
長野県の標高900m以下の地域（積雪地を除く）

表 長野県における「ゆめきらり」作付計画

年度	2013年度 (2014年産)	2014年度 (2015年度)
作付面積	200ha	1000ha シラネコムギから全面切替

3. 栽培上の留意点
蛋白質含量確保のため、適正追肥に努める。
4. その他
2012年度 長野県認定品種採用。

[具体的データ]

系統名	ゆめきらり	交配組合せ	アブクマワセ／ホクシン／／東山30号	
特性	長所 1. コムギ縮萎病、萎縮病に優れる 2. 早生である 3. 穂発芽性に優れる 4. 製粉歩留、ミリングスコアが高い		短所	
採用県及び普及予定面積	長野県 1000ha			
試験地	育成地		長野県農業試験場	
系統名・品種名	ゆめきらり	シラネコムギ (標準)	ゆめきらり	シラネコムギ (標準)
播性の程度	IV	IV	—	—
叢性	やや匍匐	やや匍匐	—	—
茎立性	中	中	—	—
株の開閉	やや閉	やや閉	—	—
出穂期	5月8日	5月10日	5月8日	5月10日
成熟期	6月22日	6月26日	6月20日	6月24日
稈長 (cm)	93	89	90	87
穂長 (cm)	8.6	8.3	8.5	8.0
穂数 (本/m ²)	572	547	576	541
穂型	紡錘状	紡錘状	—	—
芒の多少・長短	やや少	やや少	—	—
ふ色	黄	褐	—	—
穂発芽性	やや難	やや易	—	—
耐倒伏性	やや強	強	やや強	強
耐寒性	やや強	やや強	—	—
耐雪性	中	やや強	—	—
耐凍上性	やや強	やや強	—	—
縮萎病抵抗性	強	弱	—	—
萎縮病抵抗性	強	弱	—	—
赤かび病抵抗性	中	やや弱	—	—
うどんこ病抵抗性	中	やや強	—	—
赤さび病抵抗性	弱	やや弱	—	—
子実重 (kg/a)	73.0	71.8	70.7	71.7
対標準比率 (%)	102	100	98	100
容積重 (g)	816	817	813	814
千粒重 (g)	43.6	40.8	43.2	40.7
原麦粒の見かけの品質	中の中	中の上	中の中	中の中
原粒粗蛋白質含量 (%)	11.1	11.0	—	—
粒質	中間質	中間質	—	—
製粉歩留 (%)	71.2	67.4	—	—
ミリングスコア	88.5	83.0	—	—
60%粉粗蛋白質含量 (%)	9.7	9.7	—	—
60%粉灰分含有率 (%)	0.35	0.37	—	—
粉の明るさ(L*)	86.71	86.67	—	—
粉の赤色み(a*)	-2.29	-2.49	—	—
粉の黄色み(b*)	12.65	13.54	—	—
アミロース含量 (%)	30.7	30.5	—	—
最高粘度(BU)	1233	1387	—	—
ブレイクワン(BU)	295	323	—	—
ファリノグラム パロリメータバリュウ	55	60	—	—
ゆでうどんの官能検査 (色)	12.8	12.9	—	—
ゆでうどんの官能検査 (粘弾性)	16.6	16.7	—	—
ゆでうどんの官能検査 (合計点)	66.8	66.9	—	—
試験年度	平成17～23年度の生産力検定試験の平均。品質試験は平成17～22年度材料の平均。但し、粉の明るさ、赤色み、黄色みは17～20年の平均値。ゆでうどんの官能検査は長野県製粉協会が20～22年産農試産材料を農林61号(20～21年)及びさとのそら(22年)を標準品として試験。		平成20～23年度の奨励品種決定調査試験の平均。	

[その他]

課題名：気候温暖化に対応した寒冷地向け小麦・大麦品種開発

予算区分：指定試験、実用技術開発事業、農食推進事業、県単プロジェクト研究

研究期間：1994～2013年

研究担当者：上原 泰，前島秀和，牛山智彦，細野 哲，中村和弘，谷口岳志，田淵秀樹，久保田基成，中澤伸夫，高橋信夫，新井利直，後藤和美，酒井長雄，近藤武晴

発表論文等：上原ら(2013)育種学研究 第15号別冊2号170